

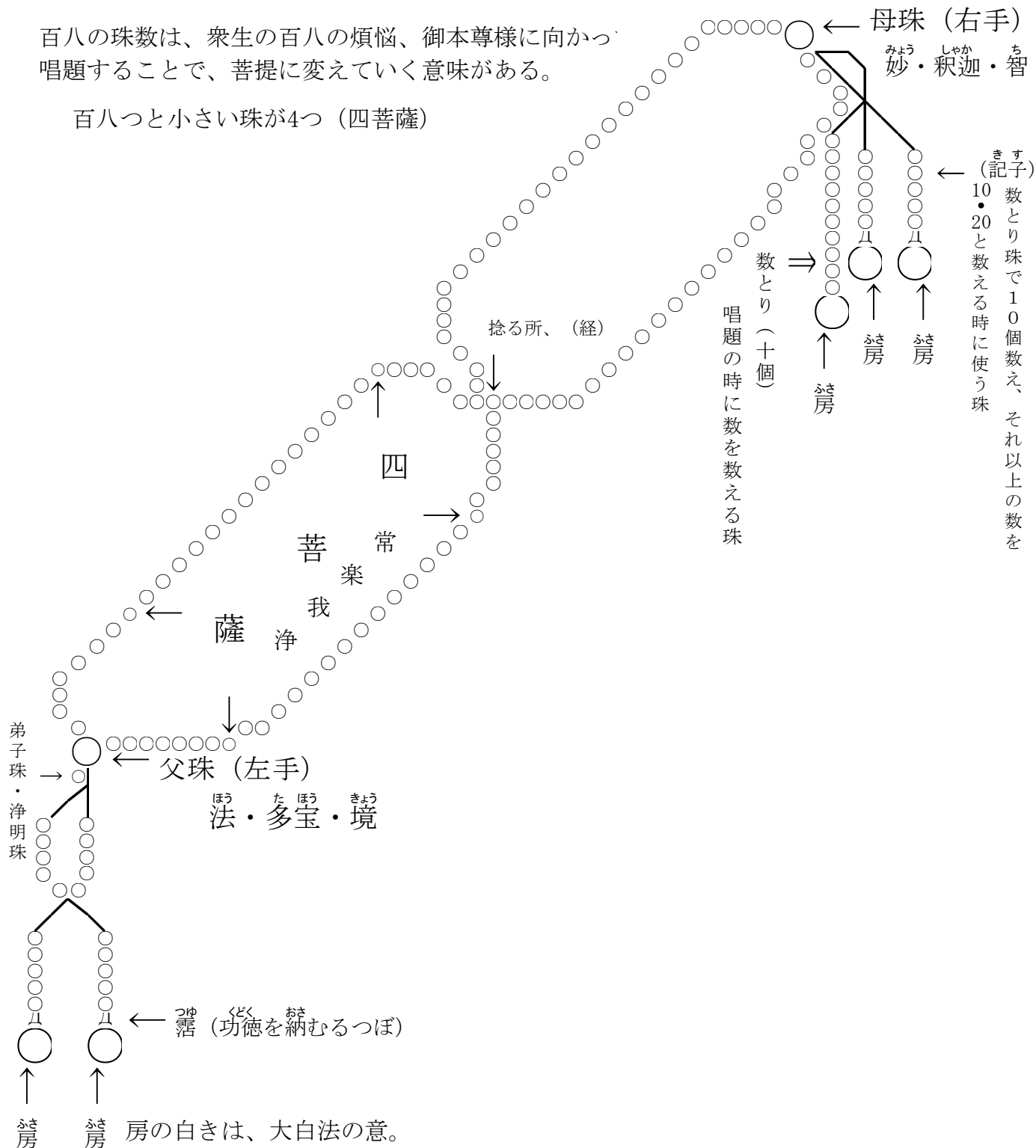
○ 数珠の掛け方

房の二本の方を左手中指に掛け、中央で交差するよう内側にひねって、三本の房の方を右手中指に掛けて合掌します。

父珠と母珠の間には百八個の円珠がある。(蓮華)
母珠(妙) 父珠(法) 捻る所(経) 四菩薩(常楽我浄)

百八の珠数は、衆生の百八の煩惱、御本尊様に向かい唱題することで、菩提に変えていく意味がある。

百八つと小さい珠が4つ(四菩薩)



きす (記子)
数とり珠で10個数え、それ以上の数を
10・20と数える時に使う珠

数とり (十個)
唱題の時に数を数える珠

つゆ (徳を納むるつゆ)

房の白きは、大白法の意。